

令和6年度 小千谷市の財務書類4表（一般会計等）概要版

1 一般会計等の概要

注)金額は、単位未満を切り捨てているため、合計が一致しない場合があります。

【貸借対照表】

左側(借方)に資産、右側(貸方)に負債及び資本(純資産)を表したものです。年度末時点で市の資産がどの程度形成されていて、その財源として負債(将来世代による負担)や純資産(これまでの世代による負担)がいくらかを示しています。

	令和5年度	令和6年度	増減
資産合計	56,954,913 千円	57,430,091 千円	475,178 千円
これまでに取得した資産 (土地、建物、基金、現金等)			
【内訳】			
有形固定資産等	45,872,738 千円	47,155,673 千円	1,282,935 千円
投資その他の資産	4,539,146 千円	4,146,726 千円	△ 392,420 千円
流動資産	6,543,030 千円	6,127,692 千円	△ 415,338 千円

	令和5年度	令和6年度	増減
負債合計	18,573,294 千円	19,193,766 千円	620,472 千円
(地方債、退職手当引当金等)			

	令和5年度	令和6年度	増減
純資産合計	38,381,619 千円	38,236,325 千円	△ 145,294 千円
(固定資産等形成分、余剰分(不足分))			

【行政コスト計算書】

行政サービスの提供に伴って発生した1年間の費用(行政コスト)とそれに充てられる収入の状況を表した財務書類です。

	令和5年度	令和6年度	増減
経常費用(a)	24,068,585 千円	25,479,133 千円	1,410,548 千円
【内訳】			
業務費用(人件費、物件費等)	10,341,614 千円	11,470,586 千円	1,128,972 千円
移転費用(補助金等)	13,726,971 千円	14,008,547 千円	281,576 千円
経常収益(b)	557,252 千円	654,709 千円	97,457 千円
行政サービスの受益者負担分 (使用料、手数料等)			
純経常行政コスト(c=a-b)	23,511,333 千円	24,824,424 千円	1,313,091 千円
経常費用から経常収支を減じた額 経常的な活動によって生じたコスト			

	令和5年度	令和6年度	増減
臨時損失(d)	14,070 千円	30,146 千円	16,076 千円
災害復旧事業費や資産売却却損等			
臨時利益(e)	0 千円	1,941 千円	1,941 千円
資産売却却益等			

	令和5年度	令和6年度	増減
純行政コスト(f=c+d-e)	23,525,403 千円	24,852,629 千円	1,327,226 千円
純経常行政コストに、臨時損失・臨時利益を 加減した、全行政活動によって生じたコスト			

【純資産変動計算書】

貸借対照表の純資産の1年間の増減を表した財務書類です。

	令和5年度	令和6年度	増減
前年度末純資産残高(a)	37,067,597 千円	38,381,619 千円	1,314,022 千円
本年度純資産変動額(b)	1,314,022 千円	△ 145,294 千円	△ 1,459,316 千円
【内訳】			
純行政コスト	△ 23,525,403 千円	△ 24,852,629 千円	△ 1,327,226 千円
財源(税収等、国・県等補助金)	24,839,424 千円	24,709,165 千円	△ 130,259 千円
その他(無償所管換等)	0 千円	△ 1,830 千円	△ 1,830 千円
本年度末純資産残高(c=a+b)	38,381,619 千円	38,236,325 千円	△ 145,294 千円

【資金収支計算書】

1年間の資金の流れを「業務活動」「投資活動」「財務活動」の活動別に表した財務書類です。

	令和5年度	令和6年度	増減
前年度末資金残高(a)	1,445,567 千円	1,555,785 千円	110,218 千円
本年度資金収支額(b)	110,218 千円	△ 835,600 千円	△ 945,818 千円
【内訳】			
業務活動収支	2,127,529 千円	1,154,643 千円	△ 972,886 千円
投資活動収支	△ 2,400,139 千円	△ 2,493,420 千円	△ 93,281 千円
財務活動収支	382,828 千円	503,177 千円	120,349 千円
本年度末資金残高(c=a+b)	1,555,785 千円	720,185 千円	△ 835,600 千円
前年度末歳計外現金残高	64,222 千円	64,644 千円	422 千円
本年度歳計外現金増減額	423 千円	376 千円	△ 47 千円
本年度末歳計外現金残高(d)	64,644 千円	65,020 千円	376 千円
本年度末現金預金残高(e=c+d)	1,620,430 千円	785,205 千円	△ 835,225 千円

2 一般会計等財務書類の主な分析指標

【歳入額対資産比率】・・・ 2.0年（前年度値:1.9年）

歳入総額に対する資産の比率を算定することにより、形成されたストックである資産は何年分の歳入が充当されたものかを見ることができます。年数が多いほど社会資本整備が進んでいるといえ、平均的な値は、3～7年の間とされています。

当市の歳入額対資産比率は2.0年となり、平均値よりも少ない値となっています。これは、財政面では多大な負担とならないよう社会資本整備を進めているものです。

【将来世代負担比率】・・・ 22.7%（前年度値:20.7%）

社会資本形成の結果を表す公共資産のうち、将来の償還等が必要な負債による形成割合を算出することにより、将来世代の負担比重を把握することができます。平均的な値は、15～40%の間とされています。

当市の将来世代負担比率は22.7%となり、平均的といえます。これは、地方債により過大な資本形成を行わず、適切な社会資本形成を行っているといえます。

【行政コスト対税収等比率】・・・ 100.6%（前年度値:94.7%）

純経常行政コストに対する一般財源等の比率を見ることにより、当年度に行われた行政サービスのコストから受益者負担分を除いた純経常行政コストに対して、どれだけが当年度の負担で賄われたのかがわかります。平均的な値は、100%に近づくほど資産形成の余裕度が低いといえ、さらに100%を上回ると過去から蓄積した資産が取り崩されたことを表します。

また、平均的な値は、90～110%とされています。

当市の行政コスト対税収等比率は100.6%となり、前年度との比較では5.9ポイント増加しました。これは、主に業務費用などの純経常行政コストが増加したためです。

今後も行財政改革により事務事業を見直し、健全な財政運営に努めていきます。

【受益者負担比率】・・・ 2.6%（前年度値:2.3%）

行政コスト計算書における経常収益は、いわゆる受益者負担の金額で、経常収益の行政コストに対する割合を算定することで、受益者負担割合を算定することができます。平均的な値は、3～8%の間とされています。

当市の受益者負担比率は2.6%となり、平均値よりも数値は低いため、今後も使用料及び手数料等の見直しを検討していく必要があります。